



Au pied de la Tour Eiffel photo by Saori

Parisienne 突撃インタビュー 今月のお客さま Chisa さん



子連れでパリ移住！凹んでばかりの パリ暮らし、変化のきっかけは？

インスタフォロワー数3.1万人のインフルエンサーであるバレエ講師Chisaさんはシングルマザーを経てパリへ移住、日仏家庭で3人（20・18・8歳）のお子さんのママであり、イヤカフブランド「q paris」のPRも務めるなどアクティブに活躍しています。が、パリ移住当時は、フランス語が全く分からず、その笑顔からは考えられないほど、凹むことも多かったとか。移住のきっかけから、今のポジティブな彼女に至るまでの道のりを聞きました。

(取材 編集部)

子どもたちに違う世界を見せたい

◆**今のご活動は？**
 去年の秋から自宅でのオンラインレッスンをメインにしていますが、スタジオでの対面レッスンもしています。日本ではバレエの先生として働いて一人で子どもを育てていたのですが、今は夫もいるし一番下の娘もいるので、基本は家で仕事をしたいんです。イヤカフプロデュースはパリ発のブランドを作るといって誘われたのが始まりでした。パリにきた当時の私は、言葉も分からないし、仕事もしていない。自分の価値を全く感じられなくて。みんなの優しさも感じられないほど暗くて性格悪かったです（笑）。インスタなんて誰が見てくれるだろうって。でもこのチャンス逃したら次はないな、と思って少しずつ始めました。

◆**パリに来たわけは？**
 当時付きあっていた彼（現在のご主人）の仕事の都合でした。正直な話、10年間続けてきたバレエ教室の生徒さん100人を手放して海外に行くのは覚悟がいる。でも当時小学校低学年の息子たちに外の世界、違う文化のものを観せられるかなと。フランス語ができたほうが絶対にいいと思ったし、パリで育つなんてチャンスもなかなか多くはないかなとも思い色々な世界を見せたいのもありました。それに日本に帰ってきたら、違う目線で日本の魅力が見られるように育つ気がして。

◆**その目論見は当たりましたか？**
 当たってました！ 私だけ取り残されてましたけど（笑）。パパの鬼のフランス語レッスンと子どもたち自身の頑張りのおかげで、子どもの慣れは早かったです。学校の授業がちょっとできるならだれでもできるけど、クラスでバカにされないようになるとやはり結構勉強しないといけないので。

テンションで通じる！ 完璧主義の先に見えてきたもの

◆**辛さを克服できた理由は？**
 しんどかった時期を乗り越えられたのはバレエのおかげなんです。本当に嫌になったら、オペラ・ガルニエの見学15ユーロのチケットを買って、大階段に3時間くらい座ってました。あの建物を見てると、ま、いっかと思えるようになる。それを繰り返しました。

私は完璧主義のところがあるように思うのですが、ある時期からフランス語が全部完璧じゃなくてもいい、テンションで通じたらいいんだ！と思えるようになって、自分が得意なことをやろうとバレエスタジオに行ったんです。バレエを通じてスタジオの人たちとも仲良くなって、恋愛相談もしてくれたり（笑）。そのあたりからインスタのフォロワーさんが自然と増えて、2022年の秋に伊勢丹でイヤカフのポップアップができました。そこで自分でもいいのかとやっとなら復活したんです。

◆**旦那さんとは何語？ 日本語教育はどうしてますか？**
 彼とは進学のことや子どもたちの精神的な話は120%しっかり伝えあえるように日本語にしてもらっていますが他はその時によります。だからやっているんですね、私（笑）。自分の不満や不安や心のわだかまりは日本語でもクリアになるまで誰かに伝える事は難しいですね。妻の国をリスペクトしてくれて、理解してくれるパパには感謝です。

娘の日本語教育には結構時間を使っています。学校に行くまでは一緒にいる時間はとにかく日本語で話し続けました。一緒にドリルやって何度イラっとしたか（笑）。でもそこを乗り越えたら、一人でも勉強できるようになるから、当時は仕事をせずに娘と向き合おう、と。思春期のバトルや、深い話を日本語でしたいですし、おじいちゃんとおばあちゃんと日本語できちんと話せるといいなと。

◆**これからやっていきたいことは？**
 お陰様で今はとても楽しくやらせてもらっています。今やっていることをより強化していくのが目標かな。イヤカフPRIは年に一度、一年半に一度でも必要とされて日本に行くのが目標です。バレエや運動をお伝えするお仕事は生徒さんの体が変わったり、ポジティブになったり、みんなが生きていてくれるんです。誰かが喜んでくれるのが大好きなので、頑張れるんですよ。レッスンを通してその人の気分をあげられるようにしたいですね。

Instagram @chisa_paris

毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。
 毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国

語り 冨田 九穂子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

マダム愛の わたくし ミ♥ュラン

第125回

フランスの王道料理が さくっと食べたいならここ！

パリのど真ん中にあるコンコルド広場。見渡すとそこは昔のパリの建物に囲まれ、美しくはあるけれど何も無い無機質さすら感じる景色。でもね、一步協道を入ると賑やかなエリアになり、その中にパリジャンたちが集まる人気のブラッセリーがあるんです。それが「La Florentin」。広いのにランチタイムは予約なしでは入れないくらい混んでいる人気のお店。こちらで頂けるのは、フレンチのど定番メニューたち。

まるでガイドブックの“フランスの家庭料理”メニューがそのままレストランメニューになっているくらい、何でも楽しめます。例えばひき肉の上にマッシュポテトを敷いて焼きあげるグラタン“アッシュパルメンティエ”。このお店ではひき肉ではなくしっかり煮込まれたトロトロ牛肉を使っている美味、マッシュポテトは重すぎなくてちょうど良い。付け合わせのお野菜がたっぷりなのも嬉しい。牛肉のタルタルは酸味が強すぎたのがちょっと残念だったけれど、美味しく頂きました。どれもこれも料理上手のおばあちゃんの家で食

べているようなお料理たちで、食べていてほっこりします。デザートも定番ばかり。せっかくならとことん定番を、と頼んだクレームブリュレは表面のキャラメルが硬すぎず柔らかすぎず微妙で絶妙。クレームも甘すぎず美味しく頂きました。こんな中心にありながらもお値段はリーズナブル。これは近所のサラリーマンたちがランチに通い詰めるのも納得！と思ったそんなレストランなのです。

- A. 大賑わいの店内。そのほぼ全てが地元で働いていると思われる人たち。入った瞬間に、パリに来た！と思える雰囲気があります。
- B. パリの伝統的なお料理の名前がずらりと並ぶメニュー。どれにしようか悩む事間違いなし。旅行者にもフランス人にも喜ばれる事間違いなしです。
- C. フランス人にとっての家庭の味、おばあちゃんの味であるアッシュパルメンティエ。マッシュポテトとの相性抜群です。
- D. パリと言ったらこれ！ ビーフタルタル。どのお店にもあるからこそ、そのお店の個性がでる1皿でもあります。
- E. クレームブリュレは小ぶり、お腹いっぱいでもペロリといけるくらい甘さは控えめ。

今月のハート

料理	♥♥♥♥♥
ドリンク	♥♥♥♥♥
サービス	♥♥♥♥♥
雰囲気	♥♥♥♥♥
コスパ	♥♥♥♥♥

Le Florentin
10 Rue Saint-Florentin 75001 Paris
01 42 60 13 42
<https://restaurantflorentine.fr>

writer **マダム愛**
東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやらに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。
blog **マダム愛の徒然パリ日記**
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>
blog **マダム愛のアパートの鍵貸します**
<https://www.madameai.com/>



マジ!? 翻訳家レミの **ここがびっくり 世界文学**

時代を反映させていた魔法の箱

テレビが普及し始めてからかれこれ70年近くが経つ。その間にどの出来事があったかを軽く振り返るとわりと長い期間である。和暦で言うと年号が2回変わった。以前は新聞とラジオに頼っていた人間は現在、基本的にテレビではなくネットから情報を得る傾向にあるが、配信サービスの延長で画面の時代が終わったとはまだ言えないような気がする。アイドルやお笑いは相当美味しいビジネスである上、今だに多くのドラマが作られ、それなりの視聴率を占める。とはいえ次世代は一体どのメディアの力を借りて情報を手にいれるのか想像できる者は間違いなく将来の億万長者になる可能性大。要らない情報が氾濫するこの時代に少しだけ電報に戻ってもいいのではないかとひっそり願う自分はまだ当分金銭的に苦しんでいよう。

この「魔法の箱」が出回ってから地上波でとめどなく放送されてきたコンテンツの9割くらいは

『テレビドラマは時代を映す』
岡室美奈子 著
ハヤカワ新書

クソ…えーと、消えてもきつと誰も気にしないと思われるが、真のテレビっ子にだけではなくテレビは誰にでも多かれ少なかれ影響を及ぼしてきただろう。子どもの頃に見たアニメは翌日学校の話になったのと同じく、同僚や友達に会うと韓流ドラマやお笑いのネタで話が弾む大人は少なくはないはず。ドラマ『HERO』を観てキムタクと同じ服を着ようと単純に思った人も、正義感を身につけて検察官を志そうとした人もいるだろう。芸人の生活に憧れて「テレビに出たい」と夢見ていた子ども達は今どうやら「ユーチューバーになりたい」と言うらしいが、根本的な動機は昔のまま変わってないだろう。要は容易にお金を稼ぐことと他人から評価されたいことくらい。昔は何かを成し得てから人は有名になっていたが、現在ほぼ何もしていないのに知名度の高い人が増えていて違和感を感じる。彼らもそれなりに次世代に影響があると考えたら早くこのテレビの時代に終止符が打たれるようお願いしたいかも。

編集部info

著者の岡室さんは、早稲田大学文化構想学部の教授であり、前早大演劇博物館館長！日本のテレビドラマを語るならこの人！という方。読書人には程遠い編集部は、早速Amazonで(!)本を検索、目次内容をチェック。『鎌倉殿の13人』『Silent』『カーネーション』等々私も知ってるあの名作ドラマが語られてます！新書なので読みやすそうだし、長雨の季節におうちで楽しむ1冊に加えるのは如何でしょうか？

writer **Rémi BUQUET**
翻訳家・通訳者
Contact buquetremi@negoto.fr

とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

神に捧げる男性の肉体美!?

7月はいよいよパリオリンピックの開幕。既存のインフラを活かし、サスティナビリティをコンセプトとする今大会は、シャンゼリゼ通り、シャン・ド・マルス、ヴェルサイユ宮殿、そしてエッフェル塔など錚々たるモニュメントの下、様々な競技が行われます。

開会式は、各国の選手たちがボートに乗ってセーヌ川をパレード。パリの東、オステルリツ橋から出発、サン・ルイ島、シテ島を回り、エッフェル塔のふもとイエナ橋まで行き、トロカデロ広場でフィナーレ。その間、ノートルダム大聖堂、ルーヴル美術館、ポンヌフ、オルセー美術館など名所を通過。オリンピックファンでなくとも楽しめます。

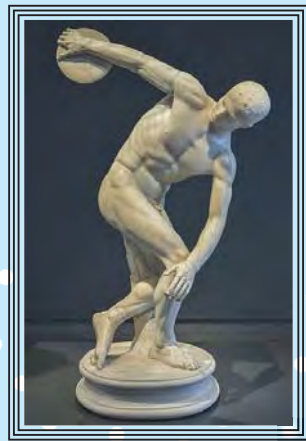
今こうして、エンターテインメント的に楽しんで

いるオリンピック。その昔、紀元前8世紀頃は4年に1度行われるオリュンピア大祭という神ゼウスに捧げる儀式でした。群立する都市国家間では争いが絶えず、しかし神聖化されたその儀式の年だけは休戦となりました。参加者はギリシャ人男性のみ。しかも肉体美を神に捧げるため競技は全裸。なんなら、衣服を身に纏う方が恥ずかしいくらい。ギリシャ彫刻がほぼ裸なのはそういう理由もあるようです。

今回の作品は、当時のギリシャ文化をよく現したミュロンの作品、円盤投げ。彼自身は、紀元前460~450年の人とされ、オリジナル作品は残っておらず、複製は世界にいくつかあるようです*。

古代オリンピックを近代へ蘇らせたのは、近代オリンピックの父、フランスのクーベルタン男爵。オリュンピア大祭に感銘を受け、世界中の人々が参加できる大会にし、競うだけでなく国際交流、世界平和の役割も持たせました。公用語にフランス語が使われるのはそのためです。

*写真の作品はその一つ、ローマ国立美術館所蔵、制作年は紀元前120年と推定されとても貴重です。



writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史&日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/md750819c9bc7>

仏人添乗員リラの日本リラ散歩



バナナギャグを取り入れた歩きスマホのポスター

街中でスマホ禁止?

観 光案内からデスクワークの仕事に転職し、さらにコロナから業務がほぼフルリモートになってから東京を歩き回る機会が少なくなった。そのせいか、だんだん東京の人混みが気になって、出かけている時にイライラしやすくなったことを最近感じるようになった。SNSの影響なのか、ちょっと雰囲気の良いカフェはどこも行列するし、せっかくの休日のお出掛けが仕事の日より疲れる結果に。今年桜の時期に、穏やかさを求めて公園に着いたら原宿並の混雑だった。そもそも花見シーズンに東京郊外の公園で人から離れ自然を楽しみながらゆっくりできると思っていた自分が甘かったと反省した。

人の多さもそうだけど、人の行動にも敏感になってきた。あれほど注意書きや構内アナウンスがあるのに歩きスマホをしている人がまだ多くて、ぶつからないようにその人たちを避け続けたら忍者のスキルが身についた気がする。自分の場合家にいるとパソコンやスマホをたくさん見て

しまっているから、電車や外にいる時なるべく見ないようにしている。移動中は暇だと思っても、すぐ画面を見ないで外の景色を楽しんだり、周りの人を観察したり、自分の考えごとに集中したり、そういった時間も大事だと改めて感じた。

最近、フランスのとある村では、住民投票の結果により公共の場でスマホの使用を禁止する条例が公布されたい。使用したとしても罰金などはないけど、大人も子どももスマホに依存せず、意識や行動の変化のきっかけになることが期待されている。この前東京でベビーカーに乗っている赤ちゃんが真顔でスマホをスクロールする姿を見たとき時代の流れを感じたね。



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とペランダの植物の世話。

トモクンのアレコレ、パノコレ、ナンゾコレ~

普及するかどうかは謎
在仏日本人のためだけではなく、
パリのカラオケボックス

カラオケってそんなに得意ではないのですが、どうしても付き合なくてはならない時があります。行く先は大体決まっています、パリのリトル・トーキョーともいえるサン・タンヌ通り界隈。日本人が経営するカラオケボックスへと向かいます。パリ市内では、カラオケの機材がある他の客の前で歌うカラオケバーは時々見かけますが、個室で歌えるカラオケボックスはサン・タンヌ以外では存在せず。やや閉ざされた世界にあるものでした。そんなパリで、最近地下鉄に大掛かりな広告を打ったのがカラオケボックス「BAM」。日本のとは違い、かなりムードィ&お洒落な内装。

元々はカラオケバーだったようですが、3~30人用の個室を取り揃え、エトワール、マドレーヌ、サンティエなどに計5店舗を構えています。ポルドーや、ロンドン、マドリッドにも支店があるそうで、相当なやり手と見ました。

2時間毎に料金が区切られ、週末やシーズンによっても料金が変わってきます。例えば今年の6月はエトワール店の4人用の個室は21時~23時/75ユーロ程度ですが、木曜日は一気に100ユーロに上がり、土曜日は更に10ユーロ上乗せとなります。マドレーヌ店とパルマンティエ店の30人用の個室が、平日だと同じ時間帯で360~420ユーロですが、木曜日から660ユーロになり、土曜日は720ユーロ。でも、30人きっかりで入店すれば、一人一人が払う金額はそれ程高くはなく、ただ、ドリンクとつまみは持ち込み不可なので、それなりの金額になるはず。ということで、日本の気軽なカラオケボックスと比べたら、それ相当の出費を覚悟しないとイケません。トリップアドバイザーの紹介ページでは概ね高評価。22時以降の入店で、料理人が帰ってしまっ

ていて何も頼めなかったというクレームにも、すぐさまスタッフから謝意を示すコメントが入っています。中々用意周到。とにかく、ラグジュアリーなカラオケボックスを経験してみるのも良いのかもしれない。ただし、日本の曲が歌えるかどうかは保証なしです~。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>

NY到着からの早速小学校に
ブッコむスタイル

い や〜着いた。本当に着いた。今着いてから1週間経ったところです。色々あったけど、一言でまとめると、大学受験までの英語、無力。全然何言っているかわからない。

子連れフライトは、JALファミリーサービスを使って順調そのもの。13時間のフライトで爆食いして到着したジョン・F・ケネディ空港で現れたのは、めちゃくちゃアメリカ人。優しくニコニコしてるけど、めちゃくちゃ英語で話してくる。あ〜マジでアメリカ来ちゃった。フランスの時より「言葉分かってて来てるよね」の圧がスゴイ〜。

まずは大急ぎで我が家のゴキゲン姉妹を学校に入れてしまうことに。だってもうすぐ2ヶ月の夏休みに入ってしまうらしいから。家から徒歩5分の現地校を見学。保護者コーディネーター・シャロン先生が親切そう(もはや雰囲気のみで判断)に色々説明してくれたのですが、理解は1割弱。たぶんジョークも飛ばしているけど全部わからない。でも大人だから無視はいけない。「ア〜ハ〜」って答えること20回。内心は「あ〜? は〜?」って坂田師匠くらいバカ顔してるんだけど。説明を聞いていた夫によればシャロン先生は「私も昔、イギリス駐在があってとてもロンリーだった。あなたをロンリーにしない」。英語分かる時点でロンリーの種類が違うんじゃないか、シャロン。「PTAに入ることを勧めるわ」。日本のPTAですらうまく立ち回れなかったのに難易度高すぎるよ、シャロン。

シャロン先生によると、朝ごはんはと昼ごはんは無料。水筒は持参。文房具は全て学校支給。学校は8時25分〜14時45分まで。忘れ物は2ヶ月取りに来ないと教会に寄付する。と言っていたそう。夫談。私? 私は、子どもと塗り絵をしに来た42歳ですが何か。

肝心の娘二人は、次女は「私は日本語のクラスなんだよね〜?」と衝撃の発言を繰り出し、急いで



パリジェンヌからニューヨークへ
アラフォー女・怒涛の365日戦争

説明したところ面食らって不憫でした。長女はそれなりに理解をしていて、「夢だったらいいのに」と後ろ向き100%で不憫。先生は不安げな子どもをハグしてくれましたが、私も不安なんでハグお願いしていいですか?

何はともあれ、2日後から登校。当日学校まで連れて行った時の姉妹の顔ったら。緊張すぎて、顔色が土の色に! 可哀想で涙が出ましたが、教室に入った瞬間に子どもが次女めがけてワラワラ集まってくるではないか。パンダを見つけた時の目の輝きである。皆うちのパンダをよろしく! 長女は「この子が案内します」と知らない女の子をあてがわれ、消えていきました。

夫と「何回泣いただろう」「行きたくないって言われたらどうしよう」など不安を募らせ6時間後にお迎えに行くと、次女は「友達4人もできて一緒に遊具で遊んだ。プレスレットももらった。ランドセルは褒められた!」長女「友達5人できた。こりゃ友達100人行くわ」。つええ。長女は、welcomeと書かれたメッセージボードをもらい、さらにダンスの授業で「MVPはあなた!」と大谷ぱりにMVP授与されたそう。クラスに日本人も居ないというのに、特に困ったエピソードがないのでおかしいなと思っていたら姉妹ともども「授業中、先生とグーグル翻訳で会話した」と。翻訳で教えてくれたそうで、長女は「授業に飽きた」と伝えたそう。オイオイ。正直すぎるだろ。「先生を笑わせてやったよ」だそうです。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

スイーツア・ラ・モード

私を通り過ぎたお菓子たち

贈り物にもご褒美にも♡ 特別なショコラ

た くさんのショコラティエが日本に進出していますが、イベント以外で日本での対面購入ができないショコラトリエ筆頭はやはり「パトリック・ロジェ!」です。ショコラ好きには説明が不要なパリ超有名店で、ジュエリーショップのような店内に足を踏み入れると今も少し緊張してしまいます。

味はもちろん素晴らしくお酒にも合う酸味と苦味が絶妙なショコラに敵うものなしと思っています。パリジャンにとってもやはり高級で特別なショコラトリエ、私はワインとセットにして贈り物として特別な時に購入することがほとんど。そんな夢のようなショコラは日本から直接フランスのサイトで購入&空輸も可能なのですが、それでは味気なさすぎる…パリを訪れた際にはぜひ緊張しながらもお店でお買い物を楽しんでみて下さい! 特別な思い出になること間違いなしです!



【Patrick Roger】 19 Rue de Sèvres, 75006 Paris ◆ Assortiment 16 pièces (4種16個のショコラ 32€) 黄色のドーム形は蜂蜜ガナッシュ。



photo by omusubi

7月26日から開催されるオリンピック・パラリンピックに向けてパリ市庁舎もご覧のとおり!

writer おむすび

1年だけの語学留学のつもりが…水が合ったのか!? そのまま関西弁パリジェンヌに。ガイド歴10年以上。キラキラだけじゃないパリの親しみあるリアルをご案内中。

Instagram @OMUSUBI_Food_Paris



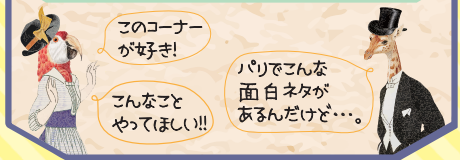
▶絶賛時差ボケ中、強行タイムスクエア。こんな銅像あるんだ。誰だろうか。
▲会った瞬間に事務員のおばさんに「日本の相撲の試合の予約をしたいのだけど日本語が読めないから教えて」と言われました。とてもつらいフランクさである。

ノアゼットプレスへの
ご意見・感想
大募集!!

ただいま編集部では、「もっとオモシロ楽しい紙面作りを!」と考えて、読者の皆さまからのご意見・ご感想を大募集中。

感想をお送りいただいた方の中から抽選で5名に、「パリに住みたくなったら読む本」を差し上げます。どんな小さなことでもOKです。皆さんの熱い(!?)メッセージを編集部一同お待ちしております!

送付先 ☐ info@noisette-paris.net



このコーナーが好き!

こんなことやってほしい!!

パリでこんな面白ネタがあるんだけど…

◆ Noisette Press ◆

10年分のインタビュー特選集

「パリに住みたくなったら読む本」
—フランス人120人に聞いた赤裸々暮らしナビ—

- ✦ バンドマン、翻訳者、ナチュリスト、居合道の達人!?
- ✦ フツのフランス人が一番オモシロイ!
- ✦ 現地在住ライターのニッチなパリガイドも掲載



本体価格 1,500円(+税)
ご購入・お問い合わせは info@noisette-paris.net まで!
Amazonサイトでも購入可能です



大好評発売中!

英語だって日本語みたいに楽しくしゃべりたい
リアルライフ英会話
for Women

TAS & コンサルティング
<http://www.jp-tas.com>



ノアゼット
Noisette
プレス
Press

À bientôt!

発行元: ノアゼット東京オフィス
<http://www.noisette-paris.net>
編集発行人: 吉野 亜衣子 編集: 小橋 椋子
タイトル illustrations: Masumi Yamaguchi

